医学教育振興財団[*1]

西　園　昌　久[*2]

はじめに

この財団は“日本ならびに，諸外国の医学教育（卒後の臨床研修を含む）の方向と実情とに関し，不断の調査研究を行い，その成果を医学教育機関に提供するとともに広く社会に公開するなど，日本における医学教育の充実向上について寄与し，もって医学の振興と人類の福祉に貢献することを目的とする”事業を行うために設立されたものである．

1979年4月に発足し，1982年8月に現在の東京都千代田区永田町2丁目16番2号星和会館に事務所を移転して以来今日にいたっている．国公私立の医科大学医学部すべてが加盟している．現在（1989年）の役員等は表1のとおりである．

1986～90年にかけて本財団が行った事業について報告する．

1．医学教育研究助成

この研究助成は，基礎医学教育・臨床医学教育についての調査研究を助成し，わが国の医学教育の充実発展に寄与する目的からなされている．毎年3月末日までに公募し，申し込み課題について「医学教育研究助成審査委員会」で厳正な審査が行われ，その答申に基づいて助成が行われている．

86年は37件の申し込み課題から8件510万円，87年は36件の申し込み課題から9件650万円，88年は35件の申し込み課題から10件530万円，89年は22件の申込み課題から11件666万円の助成が行われている．90年は現在，申し込みを公募中である．助成決定者は表2，3，4，5のとおりである．

なお，これら研究助成事業成果の発表会は毎年1回，全国の医学教育者に公開で行われている．

2．医学教育講演会，指導者セミナー

86年1月16日には，アメリカ医科大学協会の当時の会長ジョン・クーパー博士，学部担当部長（現副会長）A.G. スワンソン博士を招いて「医学教育講演会」，翌1月17日には「New MCAT 研究会」が開かれた．この外人講師を招いての講演会と翌日のセミナーは恒例となり，87年には，1月27日にベス・イスラエル病院長 M.T. ラブキンハーヴァード大学教授，E.J. ステムラーペンシルバニア大学医学部長の講演会があり，翌日は全国の主として新任の医学部長・病院長を対象とした指導者セミナーが開かれた．88年は，1月7日，8日に行い，講演会は，アメリカ医科大学協会新会長 R.G. ピータースドルフ博士，ハーヴァード大学医学部長 D.C. トステン博士，羽田春兎日本医師会長による講演があった．

89年は1月17日，18日に行い，講演会はイギリスの GMC を代表して，レスター大学医学部 R. キルパトリック博士，ニューキャッスルアポイイコタイン大学卒後教育部長 J. アンダーソン博士による講演があった．この席上で，卒前教育の両国の比較が話題となり，臨床実習の質のちがい，すなわち，患者を対象とした実物教育をどこまで体験させるかが問題となった．両講師の好意で，英国での臨床実習をわが国の学生に体験させることになり，1990年3月には都合8名の医学生が両大学に短期間留学することとなった．

なお，この期間中順天堂大学平井慶徳助教授，

---

*1 The Japan Medical Education Foundation.
キーワーズ：国内医科大学視察と討論の会，New MCAT 研究会，医学教育シンポジウム，医学教育研究助成

*2 Nishizono, Masahisa 福岡大学医学部精神医学教室

表 1 役員等 (1989)

○理事長
懸田　克躬（順天堂大学理事長）
○理　事
青木　國雄（名古屋大学医学部長）
青地　　修（名古屋市立大学教授）
浅田　敏雄（東邦大学学長）
沖永　荘一（帝京大学理事長）
大堀　　勉（岩手医科大学学長）
懸田　克躬（順天堂大学理事長）
香月　秀雄（放送大学学園顧問）
川崎　明徳（川崎医科大学理事長）
正印　　達（金沢大学医学部長）
高久　史麿（東京大学医学部長）
田中　直樹（東京慈恵会医科大学理事）
西園　昌久（福岡大学教授）
星　　猛（静岡県立大学教授）
前川　　正（群馬大学学長）
三宅　史郎（日本大学医学部長）
成生　倫夫（広島大学医学部長）
森野　能昌（熊本大学医学部長）
吉岡　博光（東京女子医科大学副理事長）
渡邉陽之輔（慶応義塾大学教授）
○監　事
池中　　弘（日本協栄証券㈱常勤監査役）
吉田　寿雄（大妻女子大学常任理事）
○評議員
青木　峰男（兵庫医科大学理事）
青地　　修（名古屋市立大学教授）
浅田　敏雄（東邦大学学長）
井村　裕夫（京都大学医学部長）
牛場　大蔵（日本医学教育学会会長）
内野　文弥（山口大学医学部長）
大西　義久（新潟大学医学部長）
大堀　　勉（岩手医科大学学長）
岡本　耕造（近畿大学理事）
岡本　直正（宮崎医科大学学長）
沖永　荘一（帝京大学理事長）
落合京一郎（埼玉医科大学学長）
懸田　克躬（順天堂大学理事長）
片山　　喬（富山医科薬科大学医学部長）
加美山茂利（秋田大学医学部長）
川崎　明徳（川崎医科大学理事長）
菊地　浩吉（札幌医科大学学長）
菊地　吾郎（日本医科大学学長）
西東　利男（金沢医科大学理事長）
斎藤　尚夫（日本私学振興財団常務理事）
佐藤登志郎（北里大学医学部長）
佐藤　文明（自治医科大学病院長）
清水　文彦（独協医科大学学長）
下田　晶久（旭川医科大学学長）
杉山　陽一（三重大学医学部長）
田内　　久（愛知医科大学学長）
鷹津　　正（大阪医科大学理事）
竹内　　昭（順天堂大学医学部長）
武重　千冬（昭和大学医学部長）
田中　直樹（東京慈恵会医科大学理事）
俵　壽太郎（高知医科大学学長）
塚原　　勇（関西医科大学学長）
土屋健三郎（産業医科大学学長）
坪井　昭三（山形大学医学部長）
鳥塚　莞爾（福井医科大学学長）
内藤　芳篤（長崎大学医学部長）
中谷林太郎（東京医科歯科大学医学部長）
永井　純義（東京医科大学常務理事）
檜　　學（島根医科大学学長）
福西　　亮（愛媛大学医学部長）
堀　　原一（筑波大学医学専門学部長）
本間　守男（神戸大学医学部長）
前田　徳尚（聖マリアンナ医科大学理事長）
増原　健二（奈良県立医科大学学長）
松田　博青（杏林大学理事長）
松前　達郎（東海大学副理事長）
松本　　啓（鹿児島大学医学部長）
三宅　史郎（日本大学医学部長）
宮野　成二（福岡大学学長）
村上　正浩（久留米大学医学部長）
村山　　智（千葉大学医学部長）
森　　良一（九州大学医学部長）
吉岡　博光（東京女子医科大学副理事長）
渡辺　　裕（藤田学園保健衛生大学医学部長）
渡邉陽之輔（慶応義塾大学教授）
○参　与
紀伊國献三（筑波大学教授）
渡辺　　誠（聖マリアンナ医科大学常務理事）

事務局長　山本　　寛
事務局職員　門脇　淳三
　　中野　宏美
　　望月　明美

表 2 昭和61年度医学教育研究助成決定者

1. グループ研究

氏　　名	大学名・役職名	専攻（学）科名	研　究　課　題	助　成　額
星野　一正	京都大学教授	解剖学	わが国における生命倫理教育の基礎的研究	1,500,000円
上田　　敏	東京大学教授	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の卒前教育カリキュラム及び卒後研修システムに関する調査研究	500,000円
園田　恭一	東京大学教授	保健社会学	アメリカの医学校，公衆衛生学校における行動科学に関する研究	1,000,000円

2. 一般研究

氏　　名	大学名・役職名	専攻（学）科名	研　究　課　題	助　成　額
青野　　修	自治医科大学教授	物理学	医科大学学生の適性の評価に関する研究	400,000円
恩地　　裕	香川医科大学副学長	救急医学	包括的地域医療モデルの構築によるプライマリケアの教育の研究	400,000円
山本　哲一	京都大学助教授	法医学	米国，西独の医事法教育に関する調査	400,000円
尾形　　稔	新潟大学教授	検査診断学	知識工学を応用した臨床検査教育用シミュレーターの研究開発	400,000円
檜　　學	島根医科大学長	耳鼻咽喉科学	情報化時代の医学教育（第18回日本医学教育学会大会基調テーマ）	500,000円

表 3 昭和62年度医学教育研究助成決定者

1. グループ研究

氏　　名	大学名・役職名	専攻（学）科名	研　究　課　題	助　成　額
平野　　寛	杏林大学教授	解剖学	解剖学教育の問題点と将来への展望	1,500,000円
園田　恭一	東京大学教授	保健社会学	医学教育における行動科学の研究	1,000,000円
矢野　栄二	帝京大学助教授	公衆衛生学	卒後臨床教育の評価——診療の最適化の視点から	1,500,000円

2. 一般研究

氏　　名	大学名・役職名	専攻（学）科名	研　究　課　題	助　成　額
恩地　　裕	香川医科大学副学長	救急医学	包括的地域医療モデルの構築によるプライマリケアの実践的教育手法の研究	400,000円
渡辺　　勍	東京医科歯科大学教授	耳鼻咽喉科学	小人数セミナー方式による卒前医学教育改善に関する研究	400,000円
藍沢　茂雄	東京慈恵会医科大学教授	病理学	Patient Management Problem を導入した新しい学生のための CPC の試み	400,000円
田川　邦夫	大阪大学教授	生化学	医科生化学における問題解決型講義方式の導入と実践	400,000円
華表　宏有	産業医科大学教授	公衆衛生学	公衆衛生学の授業と学習の評価に関する研究	400,000円
菊池順一郎	防衛医科大学校校長	外科学	医学教育における分化と総合（第19回日本医学教育学会大会基調テーマ）	500,000円

表 4 昭和63年度医学教育研究助成決定者

1. グループ研究

氏　　名	大学名・役職名	専攻（学）科名	研　究　課　題	助　成　額
矢野　栄二	帝京大学教授	公衆衛生学	卒後臨床教育の評価—診療の最適化の視点から	1,000,000円
平野　寛	杏林大学教授	解剖学	解剖学教育の問題点と将来への展望	1,000,000円
久繁　哲徳	高知医科大学助手	公衆衛生学	医学判断学 (Medical Decision Making) の教育システム開発に関する研究	1,000,000円

2. 一般研究

氏　　名	大学名・役職名	専攻（学）科名	研　究　課　題	助　成　額
恩地　裕	香川医科大学副学長	救急医学	包括的地域医療モデルの構築によるプライマリケアの実践的教育手法の研究	300,000円
中野　仁雄	九州大学教授	婦人科産科学	統合医学教育研究センター（九州大学医学部）を活用した自己学習法の開発と実施に関する研究	300,000円
丸井　英二	東京大学講師	疫学国際保健	外国人医学部卒業生によるわが国の医学教育の評価と国際化の可能性	300,000円
中川　米造	大阪大学教授	医学概論	卒後研修における研修医のストレス	300,000円
堀　原一	筑波大学教授	外科学	AV 教材と CAI 教材を効果的に取り入れた新しい医学教育カリキュラムの構築	300,000円
松村　豪一	長崎大学助教授	解剖学	基礎医学教育にワークショップ形式をとりいれたスモール・グループ，ダイナミックス	300,000円

3. 第20回日本医学教育学会大会テーマ

氏　　名	大学名・役職名	専攻（学）科名	研　究　課　題	助　成　額
高久　史麿	東京大学教授	内科学	医学教育，卒後研修改善の方向を確立するための総合的研究	500,000円

表 5 平成元年度医学教育研究助成決定者

1. グループ研究

氏　　名	大学名・役職名	専攻（学）科名	研　究　課　題	助　成　額
竹内　昭	順天堂大学医学部長	生理学	卒後の臨床研修における総合診療方式の果たす役割に関する研究	800,000円
松田　博	愛媛大学病院長	小児科学	大学医学部附属病院の医師卒後研修において果たす役割	800,000円
小林　建一	東京慈恵会医科大学病院長	麻酔科学	総合診療方式研修医制度における到達目標達成度と問題点に関する研究	800,000円
近藤喜代太郎	北海道大学教授	公衆衛生学	卒前医学教育カリキュラムにおける人類遺伝学のあり方	800,000円
今井　昭一	新潟大学教授	薬理学	パーソナルコンピューターを用いたシミュレーションによる薬理学教育の教育効果に関する研究	800,000円

表 5 つづき

2. 一般研究

氏　　名	大学名・役職名	専攻（学）科名	研　究　課　題	助　成　額
鏡森　貞信	富山医科薬科大学教授	公衆衛生学	医学部における福祉関連教育とその評価に関する研究	400,000円
森　　良一	九州大学医学部長	ウイルス学	統合教育研究実習センターのシミュレーションシステムを活用した卒後研修についての研究	500,000円
武田　　裕	大阪大学助教授	内科学	卒後医学教育・生涯教育システム化に関する研究	460,000円
松村　豪一	長崎大学助教授	解剖学	基礎医学教育にワークショップ形式をとりいれたスモール・グループ・ダイナミックス	400,000円
清水久太郎	香川医科大学病院長	生化学	新設医大におけるプライマリ・ケアの卒後教育に関する研究	400,000円

3. 第21回日本医学教育学会大会テーマ

氏　　名	大学名・役職名	専攻（学）科名	研　究　課　題	助　成　額
坪井　昭三	山形大学医学部長	生化学	考える医師・期待される医師像を求めて	500,000円

表 6

1. 国内委員会名簿（A・B・C順）

阿部　正和　東京慈恵会医科大学学長
阿部　正俊　厚生省健康政策局医事課長
羽田　春兎　日本医師会長
早石　　修　大阪医科大学学長
懸田　克躬　医学教育振興財団理事長
川崎　明徳　川崎医科大学副理事長
紀伊國献三　筑波大学医学専門学群教授
小泉　　明　東京大学医学部教授
三島　濟一　東京大学医学部教授
水越　　治　京都府立医科大学教授
西園　昌久　福岡大学医学部教授
織田　敏次　国立病院医療センター院長
大谷　藤郎　社会福祉医療事業団理事
尾崎　　明　京都府衛生部長
坂上　正道　北里大学病院院長
佐野　晴洋　京都大学医学部長
佐野　　豊　京都府立医科大学学長
佐藤　國雄　文部省高等教育局医学教育課長
田中　武彦　大阪大学医学部長
塚原　　勇　関西医科大学学長
牛場　大蔵　日本医学教育学会会長

2. 参加者（国内）（A・B・C順）

阿部　正俊　厚生省健康政策局医事課長
青地　　修　名古屋市立大学医学部長
浅田　敏雄　東邦大学学長
東　　郁郎　大阪医科大学附属病院副院長
馬場　茂明　神戸大学医学部附属病院院長
藤井　正道　聖マリアンナ医科大学学長
福間　誠之　京都第一赤十字病院脳神経外科部長
古川　哲二　佐賀医科大学学長
橋村　三郎　鹿児島大学医学部長
早石　　修　大阪医科大学学長
檜　　學　島根医科大学学長
広重　　力　北海道大学医学部教務委員長
本間　達二　信州大学医学部教授
井端　泰彦　京都府立医科大学学生部長
石田　　清　埼玉医科大学教授
石川　栄世　東京慈恵会医科大学教授
石川　春律　群馬大学医学部教務委員長
磯野日出夫　岐阜大学医学部長
伊藤　　司　福島県立医科大学学生部長
伊藤　幸郎　産業医科大学教授
糸賀　　敬　大分医科大学学長
伊豆律公作　三重大学医学部長
梶川欽一郎　福井医科大学学長
懸田　克躬　医学教育振興財団理事長

表 6 つづき

柿本　泰男	愛媛大学医学部長
神原　　武	熊本大学医学部長
加美山茂利	秋田大学医学部長
柏原　貞夫	天理よろづ相談所病院病院長
春日　　孟	東京医科歯科大学医学部教授
片山　　喬	富山医科薬科大学医学部教授
川上　保雄	昭和大学学長
川崎　明徳	川崎医科大学副理事長
紀伊國献三	筑波大学医学専門学群教授
菊池　昌弘	福岡大学医学部長
小泉　　明	東京大学医学部教授
工藤　　一	弘前大学医学部教授
熊田　　衛	筑波大学医学専門学群副学長
黒田　一秀	旭川医科大学学長
釣　スミ子	大阪医科大学教務委員長
増原　健二	奈良県立医科大学学長
松川　　明	福島県立医科大学学長
松倉　豊治	兵庫医科大学学長
松尾　治亘	東京医科大学学長
松下　　宏	和歌山県立医科大学学長
三島　濟一	日本医師会副会長
宮里　　昻	近畿大学医学部教務委員長
溝井　泰彦	神戸大学医学部長
水越　　治	京都府立医科大学教授
水野　正彦	東京大学医学部教授
森　　亘	東京大学学長
永井　輝夫	群馬大学医学部長
中山　英明	鳥取大学医学部教授
浪久　利彦	順天堂大学医学部教授
西丸　與一	横浜市立大学医学部長
西園　昌久	福岡大学医学部教授
庭山清八郎	富山医科薬科大学医学部教授
野田起一郎	近畿大学医学部長
小田　琢三	岡山大学医学部長
織田　敏次	国立病院医療センター院長
小川　徳雄	愛知医科大学教務部長
冲永　功太	帝京大学医学部教授
小野　　繁	岩手医科大学附属図書館長
大谷　藤郎	社会福祉医療事業団理事
尾崎　　明	京都府衛生部部長
西東　利男	金沢医科大学学長
坂上　正道	北里大学病院長
佐久間貞行	名古屋大学医学部長
桜井　　勇	日本大学医学部教授
佐野　晴洋	京都大学医学部長
佐野　　豊	京都府立医科大学学長
沢木　修二	横浜市立大学医学部教授
柴田　　進	川崎医科大学学長
清水不二雄	新潟大学医学部教授
清水　文彦	独協医科大学学長
白井　達男	東邦大学医学部長
砂田　輝武	香川医科大学学長
平　　則夫	東北大学医学部教授
高安　久雄	山梨医科大学学長
武居　　洋	琉球大学医学部教授
竹内　一夫	杏林大学医学部長
玉田　太朗	自治医科大学学長代理
田中　武彦	大阪大学医学部長
谷口　　昻	金沢大学医学部教務委員長
俵　寿太郎	高知医科大学学長
徳岡　昭治	広島大学医学部長
戸嶋　裕徳	久留米大学医学部教授
土山　秀夫	長崎大学医学部長
塚原　　勇	関西医科大学学長
常俊　義三	宮崎医科大学教授
坪井　昭三	山形大学医学部長
内野　文彌	山口大学医学部長
植村　恭夫	慶応義塾大学医学部長
牛場　大蔵	日本医学教育学会会長
脇坂　行一	滋賀医科大学学長
渡邊　　裕	藤田学国保健衛生大学医学部長
矢田　賢三	北里大学医学部教務委員長
山林　　一	東海大学医学部教授
山田　瑞穂	浜松医科大学副学長
山元　寅男	九州大学医学部長
吉田　　亮	千葉大学医学部長
吉岡　守正	東京女子医科大学学長
文部省	
大崎　　仁	高等教育局局長
國分　正明	私学部部長
佐藤　國雄	高等教育局医学教育課長
石川　　明	高等教育局医学教育課課長補佐
厚生省	
竹中　浩治	健康政策局局長
吉富　宣夫	健康政策局医事課課長補佐
瀬上　清貴	健康政策局医事課課長補佐
Documentation Secretaries	
北村　和人	京都府立医科大学講師
折井　　豊	京都大学医学部助教授
橋　　正芳	京都府立医科大学助教授
多田羅浩三	大阪大学医学部助教授
自由参加者	
吉川　邦彦	大阪大学医学部教授
中川　米造	大阪大学医学部教授
徳永　力雄	関西医科大学教授

表 6 つづき

3. 参加者（国外）（A・B・C順）

BRANDA, Luis A.	マクマスター大学教授	カナダ
CRISP, A.H.	医学協議会医学教育部会長	イギリス
FEDERRMAN, Daniel D.	ハーバート大学副医学部長	アメリカ
GIRARD, J.F.	フランス厚生省医務局長	フランス
GOON, E.H.T.	WHO 西太平洋地域事務局	
GREEP, J.	リンブルグ大学前医学部長	オランダ
HAN, Man Chupg	ソウル大学教授	韓国
KIM, Il Soon	ヨンセイ大学医学部長	韓国
LEONG, John	ホンコン大学医学部長	香港
MOON, Tai Joon	世界医師会会長	韓国
中嶋　宏	WHO 西太平洋地域事務局事務局長	
NATTH, Bhamarapravati	マヒドール大学学長	タイ
PARK, H.J.	WHO 西太平洋地域事務局	
PRYWES, Moshe	ベングリオン大学学長	イスラエル
ROBBINS, Frederick C.	ケースウエスタンリザーブ大学教授	アメリカ
ROMUALDEZ, Alberto G., Jr.	フィリピン大学医学部長	フィリピン
ROSLANI, B.A.M. Mohd	セン・マレーシア大学教授	マレーシア
PENG, Ruicong	北京医科大学副学長	中国
SANCHEZ, Fernando	東ラモンマグサイサイ大学医学部長	フィリピン
SAUNDERS, Nicholas A.	ニューカッスル大学教授	オーストラリア
ZHU, Shineng	上海医科大学副学長	中国
SMITH, Lloyd H., Jr.	カリフォルニア大学（S.F.）副医学部長	アメリカ
STEWART, R.D.H.	オタゴ大学副医学部長	ニュージーランド
THOMPSON, Harold L.	アジア太平洋医師会会長	オーストラリア
WALTON, Henry	ヨーロッパ医学教育連盟会長	イギリス

厚生省の係官が同行し，実習内容をみることになっている．90年の講演会・指導者セミナーは7月10日，11日に開かれる予定である．

3. 地区医学教育シンポジウム

地区ごとの主体的な医学教育改善の取り組みを支援する目的から地区医学教育シンポジウムを開催している．そして，これまでは，前記の講演会に来日した外人講師が地区でも同様の講演を行った．これまで開かれた地区シンポジウムを列記すると次に掲げる通りである．

1）86年：第1回九州地区医学教育シンポジウム，開催校：長崎大学(土山秀夫医学部長)主題：(1) 入学者選抜方法の改善について，(2) 日本の現状に即した卒前の医学教育はいかにあるべきか，

2）87年：第1回中国・四国地区医学教育シンポジウム，開催校：広島大学(徳岡昭治医学部長)主題：(1) 国際医学教育報告，(2) 卒前専門教育および卒後教育はいかにあるべきか—基礎の立場から，(3) —臨床の立場から．

3）88年：第1回中部地区医学教育シンポジウム，開催校：名古屋大学（青木国雄医学部長）主題：卒業生からみた卒前教育の問題点と評価．

4）89年：第1回近畿地区医学教育シンポジウム，開催校：大阪大学(松本圭史医学部長)主題：専門医教育と生涯教育．

なお90年は7月13日第2回北海道・東北地区シンポジウムが岩手大学を主管校として行われることになっている．

4. 国際医学教育会議

この「教育白書」の期間の本財団の最大の事業はこの国際医学教育会議である．今回，医学教育の改善へのニーズはひましにたかまっているが，その内容にはちがいがある．WHO はアルマ・ア

タ宣言（1978年）以来，プライマリケア指向の保健政策を打ちだしている．それは，マンパワー養成について東京宣言となってあらわれ，医学教育もプライマリケア指向に切りかえられるべきことを要請している．他方，アメリカーハーヴァード大学の「New Pathway」にみるように科学技術や医学情報の爆発的発展・増加にいかに対応する医師づくりをするかというニーズもある．

こうした状況で伝統的保守的態度のままでわが国の医学教育は社会の付託に応えうるかという大きな疑問がある．本財団はそのようなわが国の医学教育の状況を正視し，必要なそして適切な改善を模索するために，86年6月26日から28日まで，京都市および倉敷市において国際医学教育会議をWHO西太平洋事務局と共催した．テーマは「地球社会のニーズの変化と将来の医学教育」で，参加者は，国内より全国の医科大学長，医学部長，病院長，教務の責任者など110有余名．国外より25名の参加者があった．参加者は表6に掲げる通りである．

そして，最終日に総括報告が承認されたがその中の「改善のための日本における当面の方策」の中の大きな項目だけを掲げると次の通りである．

1）わが国の医学教育の多様化の推進
2）教育目標の明確化
3）入学者選抜方法の改善
4）学生尊重の医学教育
5）教育者の自覚
6）教育病院としての大学病院の改善
7）地域および他大学との交流
8）卒後研修の改善
9）学長・学部長の医学教育上の役割と責任
10）医師国家試験の抜本的改善

この会議は，わが国で，はじめて医科大学長・医学部長を中心とした医学教育の本来の責任者が数日にわたって議論する機会を与えたものとして画期的であったし刺激的であった．しかも，諸外国の医学教育の練達の士との討論はきわめて有意義であった．筆者の私見を述べることを許していただけるならば，学生の自学自習についての彼我の態度のちがいに外国人学者との討論はつきたように思われる．

外国の医学者たちは，「学生をなぜ信頼できないのですか．学生をもっと信頼して自習の態勢にもっていくべきです」と忠告する．しかし，わが国のほとんどの学長・医学部長は，「自習にすると遊ぶだけ」と反論して並行線のままだった．「外国における，学生への信頼，わが国における学生への不信」それは，筆者にとっては医学教育の根本問題に感じてならなかった．

5．国内医科大学視察と討議の会

本財団が全国医科大学，医学部の教育の責任者の対話集会を提供しているのがこの会である．この期間に担当していただいた大学は下記のとおりである．

86年：9月19日，20日に東京慈恵会医科大学
87年：9月3日，4日に九州大学
88年：9月2日，3日に慶応義塾大学
89年：8月22日，23日に札幌医科大学
90年：8月30日，31日に久留米大学（予定）

この催しに，実施校の責任で，その大学の開学の精神，沿革，概要，入試，医学進学課程，専門課程での教育，付属病院の現状，卒後研修についての懇切な説明を聞き，その上で質疑を行い，さらに学内施設の視察を行った上で総合討論が行われる．これまで，国内を東西，国・公・私で交代で行い，卒直な意見をだしあって，医学教育の改善をめぐって相互の理解と批判を行う絶好の機会となっている．今日，先進諸外国で医学教育の成果の相互評価はきわめて重視されている．学生間の peer review があってはじめて，医師の業務の仲間からの批判と助言，忠告をうけうるようになるといわれ，卒前教育段階での peer review が重視されている．わが国ではまだその水準に達していないが，本財団のこの「国内医科大学視察と討論の会」はまさに医科大学・医学部間の peer review である．なお，本財団で，それぞれの回の報告書を出版している．

6．欧米の医学教育事情調査

この期間になされた調査は下記の通りである．

1）欧州諸国（オランダ，西ドイツ，フランス）の医学教育事情調査（1987年9月14日～25日）

団長　懸田克躬（理事長）
団員　伊藤正男（東京大学）

団員　川崎明徳（川崎医大）
紀伊国献三（筑波大学）
佐藤国雄（文部省）
塚原　勇（関西医大）
水越　治（京都府立医大）
三宅史郎（日本大学）

2）アメリカ医科大学教育病院の管理運営と臨床実習の実状調査（1990年1月21日～2月3日）

団長　懸田克躬（理事長）
団員　開原成充（東京大学）
川崎明徳（川崎大学）
紀伊国献三（筑波大学）
小林敬治（文部省）
塚原　勇（関西医大）
前川　正（群馬大学）

いずれの海外事情調査も本財団から資料を添えた詳細な報告書が出版されている．

7. MCAT 研究会

1983年から，本財団内に MCAT 研究会が設けられている．記憶の量を中心とした浅いレベルの認知領域のテストになりがちな学力試験のみでは将来医学を学び，医師としての業務を的確に遂行していくには不十分という批判がなされ，国内各医科大学・医学部では入試の改善を望むところが増加している．小論文や面接もまた次第にとり入れられ，入試方法としての有効な評価をなされている．しかし，これらの方法は，試験としてカバーする領域が限定され，評価の基準が評価者の立場や主観に偏りかねないという恨みがある．そこで検討の対象となったのがアメリカ医科大学協会が1977年から実施している MCAT Skills Analysis 法であった．

そしてこの Skills Analysis 法研究にあたった．1987年には文部省科学研究（特定研究）MCAT-Skills Analysis に関する研究（代表：西園昌久）が発足したので，財団の研究会と必要に応じ共同で研究にあたり今日にいたっている．両研究会の会員名簿は表6のとおりである．主に以下の研究がなされた．

1）問題作成と在学生を対策とした試行
1986年（14大学2,502名の在学生に施行）
1988年（16大学2,546名の在学生に施行）
1989年（16大学1,966名の在学生に施行）

2）追跡調査

3）アメリカ医科大学協会担当者の招聘

1986年1月16日に，アメリカ医科大学協会ジョン・クーパー会長，A.G. スワンソン部長を招いて「New MCAT 研究会」を行い，わが国のそれまでの研究をも報告し，理解を深めた．1988年10月24日，25日には，同協会から，MCAT の専門担当者R・ベラン博士，カリフォルニア大学サンディエゴ医学校入試担当副学長 C.E. スプーナー博士を講師として迎え講演会とワークショップを行った．なお，この記録は近く，財団から出版される．

4）Skills Analysis 研究報告書

これまでの研究の成果は「日本における New MCAT Skills Analysis 法の研究報告書」(1988)，「日本における New MCAT Skills Analysis 法研究報告書 (2)」(1988) として出版された．なお，特定研究の分は1990年に出版された．

8. 川崎学園・グリーンカレッジフェローシップ

英国オックスフォード大学グリーンカレッジにおいて1年間の臨床訓練，研究を行う日本の医師に対して滞在費および旅費を支給することを趣旨として設けられ，1987年以来，中洲庸子（滋賀医大），山本剛司（順天堂大学），相馬　彰（京都府立医大）の諸氏が栄与を勝ち得ている．

9. その他の国際会議

世界医学教育連合(WFME)主催の World Conference on Medical Education が1988年8月7日～12日エディンバラで開かれ，本財団西園昌久理事，紀伊国献三参与が参加した．なお，この会議で，医学教育改革に関するエジンバラ宣言が採択された．

WFME の下部組織である地域会議が1988年3月クアラルンプールで開催され，本財団西園昌久，山元寅男両理事が参加した．そして，その折正式に Association for Medical Education Western Pacific Region (AMEWPR) が組織され，西太平洋地域各国がその後相ついで参加しているが，わが国ではそれに対応するにふさわしい国内組織がないために，まだ正式には参加していないが西園

昌久が連絡係をつとめている.

10. 財団の刊行図書

1986年から90年の間に本財団が直接あるいは間接的に刊行した図書は次のごとくである.

1）国際医学教育会議—地域社会ニーズの変化と将来の医学教育—1986年9月.

2）国際医学教育会議(分科会編)—地域社会ニーズの変化と将来の医学教育—1987年9月.

3）「第7回国内医科大学視察と討論の会」報告書（九州大学医学部）1988年6月.

4）「第8回国内医科大学視察と討論の会」報告書（慶応義塾大学医学部）1989年6月.

5）昭和62年度医学教育研究助成成果報告書, 1989年3月.

6）「第9回国内医科大学視察と討論の会」報告書（札幌医科大学）1989年.

7）日本における New MCAT Skills Analysis 法の研究報告書, 1986年9月.

8）日本における New MCAT Skills Analysis 法の研究報告書, 1989年3月.

9）医学教育振興財団監訳：21世紀の医師, Physician for the Twenty—First Century, The GPEP Report. The Association of American Medical Association. 広英社, 1987.

*　　*　　*